

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

大学名 政策研究大学院大学

構想名称 北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

相手大学等名
(国名) 韓国開発研究大学院(大韓民国)、清華大学公共管理学院(中華人民共和国)

【構想の目的及び概要】

政府あるいは企業において中核的役割を担うことを期待されているミッドキャリア職員を中心とした人材を学生として精選し、彼らに対する

- (1)課題解決形の社会科学横断的な大学院教育をおこない、さらにこれを通じて、
- (2)日本・中国・韓国を中心とした**中核的人材同士の人的ネットワーク形成**を目指す。

前者によって、高度職業人が持つべき「**科学的合理性**」に裏付けられた個々人の課題解決能力を高め、

後者によって、「**信頼に裏打ちされた人的ネットワーク**」を通じて、個々人の能力を超えた組織としての課題解決能力を、日本とアジア各国の社会的中核機関が備えられるようにする。

個々人の「科学的合理性」は、学問的訓練と、その学問を実地に生かす試みの中で体験的に習得される。

一方、この同じ「科学的合理性」を共有して初めて、ネットワーク参加者相互の行動を予測することができ、それによって真に信頼に裏打ちされた人的ネットワークを構築することができる。

本学における課題解決形の大学院教育は、

- ・英語で国際水準の教育を行う Public Policy Program(MP1)(*後述)を中心にして、
- ・送り出し側の大学院と共同でダブル・ディグリー形式と単位互換形式の両方を柔軟に用いて行う。

本学からの学生派遣については、上記と同様の枠組み以外に、本学で獲得した分析スキルとそこで醸成された問題意識を元に、**実際の政策の適用と評価を行うような現地調査形式の研究**も考える。

本事業によって、交換留学生同士が人的ネットワークを築くことは言うまでもないが、同時に、この交換留学生を受け入れた大学に在籍する、同様にミッドキャリア職員から精選された学生(421人、2011年4月現在)との間でもさらなるネットワークを構築できる。

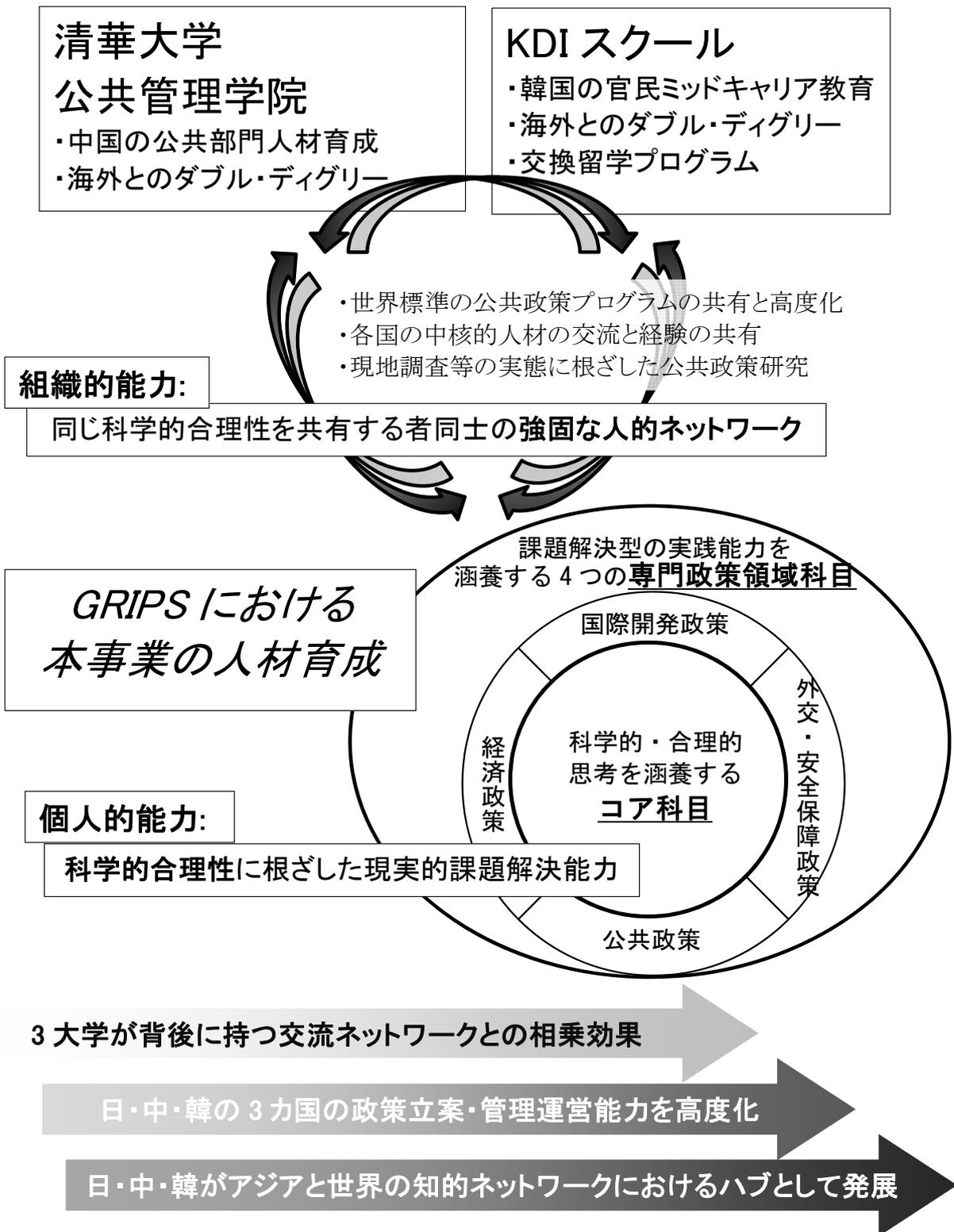
この効果は本学学生の出身地・機関の多様性のおかげで非常に大きいものとなるであろう。

すでに彼らが中核的人材としての役割を出身国で担っていることを考えると、この**人的ネットワークが学生のプログラム修了・帰国後から直ちに大きな効果を発揮**することが期待できる。

ここで考える枠組みをさらに他の国・大学との間でも適用して、2国・多国間のミッドキャリア留学生交換を拡大していきたい。将来的には、この交換プログラムに対して世界銀行、IMF、ADB等の奨学事業を合わせることで、派遣する学生の多様性もいっそう高めていきたい。

最終的には、本学および共同実施する大学が学術的な基礎を確かに持った人材を数多く排出し、その高度な知的人材ネットワークのアジアと世界におけるハブとなることを目指す。ODAを媒介とした日本=韓国・中国との関係が終了し、グローバル化によって東アジアの隣国が必ずしも特別な存在ではなくなり3ヵ国の関係が相対的に希薄化しつつある中、明日の公共政策を担う知的人材交流という枠組みを通じて、**アジアと世界の政治・経済の重心を日中韓の3ヵ国の公共政策大学院が確立**することには特別な意味がある。

【構想の概念図】



平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	政策研究大学院大学
タ イ プ	A-I
構 想 名	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム
<p>〔評価コメント〕</p> <p>教育・指導が英語で提供されている大学院大学として、国際化はしっかりと進んでいる。選抜する人材もミッドキャリア職員中心で、実学的な高いインセンティブが期待できる。</p> <p>また、韓国、中国の学生の受け入れについては、すでに万全の体制と実績を持っており、教員、職員の国際化対応も図られており、将来的に、アジアの他国にも拡大する可能性が期待できる。</p> <p>なお、すでにかかなりのレベルの連携がなされているが、さらにこの事業として実施する内容をより明確にすることが望まれる。また、プロジェクトとしての新規性や必然性が薄いように見受けられるため、すでに数多く在籍している外国人学生にとって、既存のプログラム以上に新しく魅力ある取組が期待される。</p>	